

## 平成26年度日本NGO連携無償資金協力署名式典



9月12日（金）、平成26年度日本NGO連携無償資金協力署名式典が当館多目的ホールにて執り行われ、隈丸優次特命全権大使と特定非営利活動法人日本地雷処理を支援する会の新名進カンボジア現地統括代表が、「CMACに対する地雷処理に係わる能力構築支援事業」（供与限度額：887,097米ドル）案件の贈与契約書に署名を行いました。

本案件では、機械と人力による「統合地雷処理課程」をCMACに新設し、内戦の被害が特に大きいバタンバン州バノン郡チェンミンチェイコミュニティにおいて、教育実習の一環として地雷処理を行う費用が支援されます。本事業実施により、CMACの能力構築が進むとともに、バタンバン州バノン郡チェンミンエンチェイコミュニティの4カ村、約5,900名の地域住民が地雷・不発弾の危険から解放された安全な土地で生活することが可能になります。また、地雷処理の更なる迅速化が進み、オタワ条約履行期限の2019年までに対人地雷を処理するというカンボジア政府の計画に寄与すること、JMASが昨年度事業で技術移転を行った高いレベルを持つ部隊が統合地雷処理課程の教育を支援することになることで、高い技術をもったCMACによって、南南協力をはじめとした更なる国際協力が展開されることが期待されています。



式典では隈丸大使がスピーチを行ない、過酷な環境の中、カンボジアの地雷処理事業に従事する方々に対し敬意を示すとともに、今回の支援がカンボジアの草の根レベルの人々に直接裨益し、日本とカンボジアの更なる友好促進につながることを願うと述べました。続いて、新名現地統括代表が、日本国民及び政府への感謝の意を表明し、統合地雷処理教育の態勢を早期に整え、CMACの能力構築に努めることが約束されました。スピーチの後、隈丸大使と関係者全員による記念撮影が行なわれ、式典は和やかな雰囲気の下に終わりました。

